



基盤共同研究「日本常民文化研究所所蔵資料からみる
フィールドサイエンスの史的展開」第15回公開研究会

渋沢敬三の朝鮮研究が残した遺産

-『朝鮮多島海旅行覚書』と『朝鮮の農村衛生』を中心に-

沈一鐘氏 ソウル大学
日本常民文化研究所 客員研究员

日時:2026年2月19日(木)

17:00~18:30

【開場:16:30】

開催形式

対面:横浜キャンパス9号館12室

オンライン:Zoomミーティング



申込み後、IDと
パスコードが自
動返信メールに
て送信されます。



主催:神奈川大学日本常民文化研究所

加藤幸治は最近の著書で、渋沢敬三の研究の寄与を、1) 民具収集、2) 漁村研究、3) 文献発掘と要約して整理している。これが、朝鮮を対象に調査を行った渋沢敬三の研究傾向にもそのまま適用できるだろうか。

植民地期の朝鮮と解放後の大韓民国において、渋沢敬三の朝鮮漁村研究がどのような意味を持つのかを文脈的に考察したい。また、本研究は渋沢敬三が蔚山・達里の農村衛生調査に対して行った経済的支援と、自彊会の活動において彼が後援した朝鮮人たちが、その後どのような人生を歩んだのかを追跡する。これを通じて、朝鮮人たちの「二重の植民性」を検討してみたい。

